



FSSI  
Research Report

Kanazawa University

2022. 9

---



## 科研費の獲得状況からみる金沢大学の研究所・センターの特徴

金沢大学には 13 の研究所・センターがあり、各組織において特色ある研究を行っています。本号では、科研費の獲得状況から、それら組織の特徴、特に古代文明・文化資源学研究所についてご紹介します。

### 各研究所・センターの科研費採択状況

各研究所・センターに所属する研究者（教授、准教授、講師、助教、特任教授～特任助教）一人当たりの科研（代表）の採択数、および配分総額の直近 10 年分を分析した結果が図 1 になります。

一人当たりの獲得金額が多いのは、古代文明・文化資源学研究所、ナノ生命科学研究所、環日本海域環境研究センターとなっています。一人当たりの獲得金額では、特に古代文明・文化資源学研究所が突出していることがわかります。

### 上位種目（基盤研究 S および A）の採択状況

直近 10 箇年の基盤研究（S）および（A）の採択数を図 2 に示します。基盤研究（S）では、古代文明・文化資源学研究所が 3 件、ナノ生命科学研究所が 1 件となっています。基盤研究（A）では、ナノ生命科学研究所

が 7 件、がん進展制御研究所が 5 件となっています。基盤研究（A）においても、古代文明・文化資源学研究所が 3 件と上位に位置しています。

では、当該研究所はどのような組織なのでしょうか。

### I. 古代文明・文化資源学研究所

令和 4 年 4 月に、本学初の人間社会研究域を出身母体とする全学研究所として設置されました。伝統的な考古学研究に加え、パレオゲノミクス（古代ゲノム学）を始めとする理系、医系研究との文理融合研究により、古代文明の歴史から現代、そして未来へと続く新たな知見を創出し続けています。

[PDF：古代文明・文化資源学研究所（2022 要覧）](#)

本号の分析では、当該研究所に所属し、かつ科研費に採択歴がある 7 名（教授 2 名、助教 1 名、特任教授 1 名、特任准教授 2 名、特任助教 1 名）において分析を行っています。

図 1. 直近 10 箇年における一人当たりの科研（代表）の採択数と獲得総額（千円）

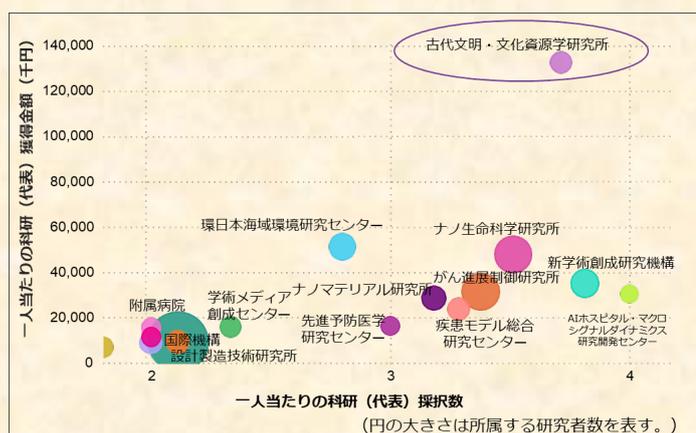
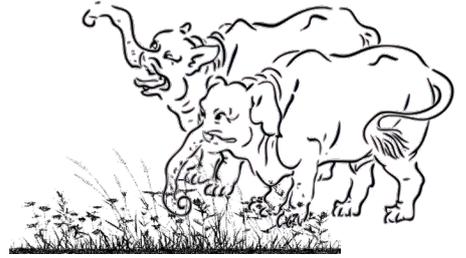


図 2. 直近 10 箇年における所属別の科研（代表）の採択数



# Topic



## II. 本学の古代文明研究

近年、本学の古代文明・文化資源学研究所に代表されるように、古代の試料と現代の科学技術との融合による新たなパレオ（古代）研究が世界的に注目を集めています。図3に示すように、「Ancient DNA（古代ゲノム）」の研究分野が、日本の代表的な研究分野である脳神経科学「Neurogenesis（ニューロン新生）」と同程度の回数、Nature 等の三大雑誌に掲載されるようになってきています。

表1では、各分野における出版論文数の世界および国内順位を示しています。「Ancient DNA（古代ゲノム）」は、日本の世界順位は低いものの、国内における金沢大学の順位は2位となっており、またFWCIが4.58と高く、本学では非常に高い研究力を有していることがわかります。

## III. 異分野融合研究について

このように本学では他大学にはない、高いレベルでの文理融合の基盤が存在しています。古代文明・文化資源学研究所では既に医学との融合研究を進めつつ

あります。今後、古代の試料やゲノム解析等々において理工研究を含めた融合研究により、さらに新たな知見が創出される可能性があります。

### 編集者コメント

科学研究費助成事業や外部研究事業等についての情報を分析し、研究者の皆様幅広く発信するために、「FSSI Research Report」を毎月発行しています。

今回ご紹介した古代文明・文化資源学研究所では他分野との融合研究を積極的に行っています。ご興味のある方は是非、当機構にご連絡ください（池田）。

- ・[研究支援全般に関する情報\(ワンストップ相談窓口\)](#)
- ・[レポートのアーカイブ](#)

### 【お問い合わせ】

金沢大学先端科学・社会共創推進機構（FSSI）

✉: [kanazawa-fssi-ir@kanazawa-fssi.com](mailto:kanazawa-fssi-ir@kanazawa-fssi.com)

今年も段々と秋が深まってきています。本学のカツラ並木も色を染め、香ばしいカルメラの匂いが辺りに漂っています。いよいよ冬が近いことを感じます。

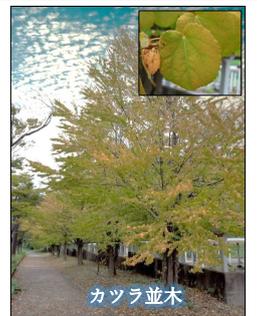
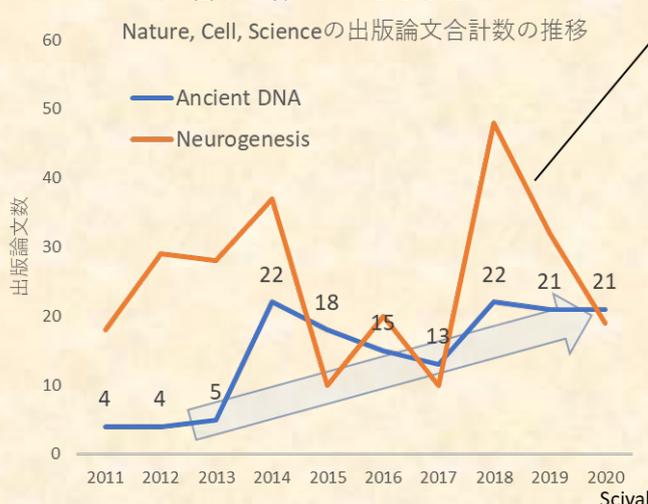


図3. 世界における分野別



Ancient DANの研究：  
最近10年で論文掲載数5倍。Nature等への掲載数は脳神経学分野に匹敵

表1. 出版論文数

分野名	世界順位	国内順位	FWCI
	日本	金沢大学	金沢大学
Ancient DNA	27位	2位	4.58
Neurogenesis	4位	12位	0.93

- 国内順位（Ancient DNA）
- 1位 東京大学
  - 2位 **金沢大学**
  - 3位 OIST
  - 4位 国立遺伝学研究所